

中3国語



【問題】(演習)

出典：池内了『物理学と神』／04年 山梨大・改題

解答

問1 ア〓念頭 イ〓ハゲ ウ〓サツカク

エ〓挙動 オ〓過不足 カ〓ダラク

問2 A〓前提として与えられたもの

B〓経験していなくても理解できる

問3 ニュートンは万有引力が距離の二乗則であることを証明したが、なぜ三乗則ではないのかという問いには答えなかったように、

自然の根本的な仕組みは近代科学では説明できないので、それを神の技と考える科学者もいるということ。

問4 初期の近代科学においては、自然は神が書いた書物とみなされていたので、自然科学とは神の意図を理解し、神の存在証明をするためのものであったから。

問5 科学は自然現象を一定の理論のもとに説明することはできても、そもそもなぜそれが成り立つのかという根本的な問いには答えられず、また理論の検証に必要な全ての実験を行うこともできない以上、理論の正しさを完全に証明することもできないから。

〔114字〕

出典：茂木健一郎『脳内現象』／05年 千葉大（教育）・改題

解答

問1 ① 領域

② 過程

③ 悟

④ 卵

⑤ 捕

⑥ 敵

⑦ 顕著

⑧ 眺

⑨ 虚栄

⑩ 拡張

問2 ア 真理をついた簡潔な言葉

イ 最初から最後まで一貫して

問3 共通点：主観性を排除した上で、対象について考えていこうとする点。

相違点：前者は心や生命を持たない存在も対象にできるのに対し、後者は自分とは違う心を持っている他者を対象とする点。

問4 科学者が自分の提出した説に対して客観的、批判的に見ることを怠り、その説を提出したことからたらされる一時的な名誉心のみで満足してしまっていること。

問5 「客観」の感覚とは、人間が主観性から脱却し、客観的に世界を認識していこうとする思考のことである。科学に不可欠なこの感覚は、幼児のセルフタッチから始まる、人間の知性の究極的到達点である。

3章

【問題】(演習)

出典…木田元『哲学以外』／05年 立教大(経・法)・改題

解答

問1 (イ)〓途方 (ロ)〓光明 (ハ)〓ふきゅう (ニ)〓増殖 (ホ)〓むく (ヘ)〓いけい

問2 (イ)

問3 (エ)

問4 技術の発達は人々に大きな恩恵をもたらしているが、人類はそれを使いこなすことができず、最終的には人類の破滅を導くのではないか、という不安のこと。

問5 技術は人間の理性の産物なのだから当然制御できると考えるのではなく、異質で不気味なものだと考え、技術を畏れながらも警戒していく必要があると考えている。

問6 ①〓A ②〓B ③〓B ④〓B ⑤〓A

●
×
モ
●

4章

【問題】 【演習】

出典：『一休ばなし』／04年 青山学院大（法）・改題

現代語訳

（一休は）よい機会だと思つて、比叡山の堂社を拝んで回つていらつしゃつたところ、山法師（＝比叡山延暦寺の僧）たちがこれを聞いて、「一休は有名な能書家だ。何でもよいから書いてもらおう」と言つて、それぞれ硯と紙を持ってきて頼んだところ、一休が思いになったことは、「聖堂の当て字と言われているように、きつと無学な法師たちなのだろう。何か書いて与えよう」と、きわめて読みづらい一句をさらさらと一気に書いてお与えになられたところ、寺中の僧が寄り集まつて、「このような能書の名僧がこの山に来たのだから、後世まで宝物となるはずの語を書かせておこう」と言つて、その中の老僧が（一休に）言うには、「先ほどよりそれぞれ書いてもらったものは、一字も読めません。また語もあまりに短くて、当寺の宝とはなりにくい。せひとも大きな字を長々と書いてお与えください。読めないものを持つていても仕方がない。せひとも読みやすいものをお頼み申し上げます」と、延暦寺の僧すべてがお望みになったので、一休がおっしゃるには、「紙と筆はございますか」「もちろん。昔、大師がご使用になられた七八尺の大筆があります。紙は何枚でもお継ぎいたします」と申し上げなされたところ、（一休が）「それでは、紙をお継ぎなさい。お望みの通り長々と大きな文字を書いて、よく読めるものを差し上げましょう。急いで紙をお継ぎなさい」と言つたので、どれほどでも紙はお望みのままというので、ひたすら長く継いでいるうちに、比叡山の金堂の前から戸津坂本の人家まで、長々と紙を継いだので、（一休は）「それでは筆を染めましょう」と言つて、墨をたっぷり含ませて、べたつと紙に書きつけて、いちもくさんに走つて不動坂まで一筋にお引きになって、「読めるか、法師たち」とおっしゃるので、「いや、何とも読めません」と言う。（一休は）また墨をつけて、不動坂から坂本まで一筋に走つて引きに引いて、「読めるか読めるか」と大声で叫びなされたので、寺中の法師たちは驚き、「いや、何とも読めません」と言うと、「これはいろは歌の、浅きの行にある『し』の字だ。長々と書いて読みやすいのはこれだ」とおっしゃるので、み

なあきれてしまい、「それにしても、聞いていた以上におどけた人だなあ」と一度にどっと笑っておもしろがったということだ。

解答

問1 a 〓 過去・「き」 b 〓 完了・「り」 c 〓 尊敬・「る」

問2 A 〓 一休が僧たちにお与えになったところ

B 〓 あなたが（一休殿が）書いて私たちにお与えください。

C 〓 大師様が（最澄様が）お使いになった

D 〓 あなたたちがお継ぎなさい。

E 〓 私があなたたちに差し上げましょう。

問3 1 〓 (ウ) 2 〓 (エ) 3 〓 (ア) 問4 し

出典：『大和物語』／05年成蹊大(文)、04年立教大(法)・改題

現代語訳

「女は驚いて、誰もいないと思っていたのに、「見苦しいところを見られてしまったことよ」と思って、何も言わなくなってしまった。男は縁に上って座った。(男が)「どうして何もおっしゃらないのですか。雨がひどいですから、やむまではこのようにして(いましゅう)」と言うと、(女は)「大通りよりいっそう雨が漏れるので、ここではかえって(雨に濡れるでしょう)」と答えた。時は一月十日ごろであった。(女は)すだれの中から敷物を差し出した。(男は)引き寄せて座った。すだれも、縁は蝙蝠に食われて、所々欠けている。家の中の飾り付けをのぞいて見ると、昔(の様子)が想像されて、畳など立派だったけれど、今ではみすばらしくなってしまった。日もだんだん暮れてきたので、(男は)そっと(すだれの中に)入って、この女を奥のほうに下らせない(ので)、女は悔しいとは思いうけれども止めようもなくてどうしようもない。雨は一晩中降り続いて、翌日の早朝は少し空が晴れた。男は女が奥に入ろうとするのを、「ただ、このままで(いてください)」と言って入らせない。日も高くなつたとき、この女の親は、(貧しくて)少将にごちそうする手立てがなかったので、小舎人童だけを残しておいて、堅塩を肴にして酒を飲ませ、(一方)少将には広い庭に生えている菜を摘んで、蒸し物というものにして、茶碗に盛って、箸には梅の花が盛んに咲いている枝を折って(出したが)、その花びらに、大変美しい女の筆跡で、このように書いてあった。

君がため……あなたのために衣の裾を濡らしながら春の野に出て摘んだ若菜ですよ

男は、これを見ると、たいそうしみじみした気持ちになって、引き寄せて食べた。女は、ひどく恥ずかしいと思って横になった。少将は起きて、小舎人童を走らせて、すぐに、車で実用的な物をいろいろ持ってこさせた。「(私を)迎えに人が来たので(帰りますが)、すぐまた参りましょう」と言っていて出ていった。その後、(男は)絶えず自分から(女のもとに)訪ねてきた。「あらゆる物を食べたが、

やはり五条の女の家にあったものは、めったにないほど素晴らしいものだった」と思い出したのであった。

解答

問1 (カ)

問2 (ウ)

問3 A 〓なぜあなたは、私に何もおっしゃらないのですか

C 〓ごちそうする手立てが無かったので

D 〓たいそう美しい女の筆跡で

問4 B 〓 (エ)

E 〓 (ウ)

問5 (オ)

問6 女 (1行目)

問7 (ア)

問8 少将の、五条の女の家での食事はめったにないほど素晴らしかった、という感想。〔37字〕



会員番号	
------	--

氏名	
----	--